



パラスポーツは
多くの人に支えられています。

障害のある人のスポーツ(パラスポーツ)は、東京2020パラリンピック競技大会の開催が決定してから、多くの人たちに知られるようになりましたが、パラアスリートを支える人の存在は、まだまだ知られていません。

障害のある人がスポーツをするには、競技の技術や戦略などの指導だけでなく、障害を補い安全に安心して行うことや競技用具の準備・移動など、様々なサポートが必要です。

支える人の多くは、一つの役割だけではなく、いくつもの役割を担いながらアスリートを支援しています。また、本職を別持ち、勤務後や休日を活用して、アスリートを支えている人たちも多くいます。



WEBで知ろう。
サポートスタッフの活躍

認定スタッフ インタビューを公開中!

東京パラスポーツスタッフ認定制度

パラスポーツスタッフを応援しよう!

サイトにアクセス!

東京パラスポーツスタッフ認定制度 検索

東京の障害者スポーツ情報を発信中!

障害者スポーツ専門ポータルサイト

Tokyo 障スポ・ナビ

詳しくはWEBで!

様々な障害者スポーツ情報を掲載し、障害者スポーツの理解促進・普及啓発や、支える体制の拡充につなげるためのツールとしても情報発信しています。

障スポナビ 検索

東京 パラスポーツ スタッフ 認定制度

アスリートの
最高の笑顔の
ために!



サポート

義肢装具や車いす製作関係、福祉や医療関係などのほか、理学療法士やトレーナー、教育関係機関等で栄養、心理、映像分析等に関わっている人たちが活躍しています。



コーチ

オリンピックをはじめ、健常者の競技団体や実業団、クラブでの指導経験をいかして活躍される人も増えてきました。



パートナー

オリンピックや健常者競技において高い競技レベルで活動していた選手がそのスキルや経験をいかし、パラアスリートのパートナーとして、一緒に競技できる人が求められています。

また、日常の練習や移動・更衣のサポートを含め競技活動を支えています。



あなたのスキル、経験、興味が役立つかもしれません。
障害のある人のスポーツ活動をお手伝いしてみたいという方は、是非、右頁記載のお問合せ先にご連絡ください。

本ページ掲載のスタッフ(上から)

牛込公一さん、富川理充さん、大森盛一さん & 高田千明選手(陸上)

📞 お問合せ先 📠



公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ12階
TEL 03-5206-5586 FAX 03-5206-5587
URL <https://tsad-portal.com/tsad>



東京都オリンピック・パラリンピック準備局
パラリンピック部 障害者スポーツ課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
TEL 03-5320-7799 FAX 03-5388-1337

表紙掲載スタッフ(左から)

中澤 吉裕さん、塩野谷 聡さん、西 明美さん、星野 英子さん 令和2年9月発行

発行日

パラアスリートを支える人たち

東京パラスポーツスタッフ認定制度とは？

パラアスリートを支える指導者やサポーター等を“東京パラスポーツスタッフ”として認定し、スタッフの存在や役割、必要性を広く社会に周知し、より活動しやすい環境に改善していくことを目的としています。

サポーター

■競技用車いすや義足などのメンテナンス、アスリートの健康や体調面を支えます。

【医・科学サポートスタッフ】

トレーナーや医師、栄養士などが健康や体調面をサポートします。

【メカニック】

競技中に使用する車いすや義足、自転車などのメンテナンスを行います。

・このほか、動作や映像などを分析する情報スタッフや、障害の程度やクラスを判定するクラシフィアなども日常的にアスリートをサポートしています。

コーチ

■アスリートやチームを指導、監督する役割ですが、時にはトレーナーやメカニックとしてサポートしたり、ガイドランナーやコーラーとしてともに競技をする人たちも多くなります。

パートナー

■視力障害選手の目となり安全を確保するために選手と一緒に競技します。また、障害の重い選手の競技を補助します。

【ガイドランナー】

陸上競技のトラック種目やマラソンで、視覚障害選手を誘導、伴走します。

【ハンドラー】

トライアスロンで、競技の移り変わりの際に障害の重い選手の着替えや乗り移りをサポートします。

【コーラー】

陸上競技の跳躍種目や投てき種目で、視覚障害選手に踏み切りの位置や投げる方向を教えます。また、5人制サッカー(ブラインドサッカー)では、ゴールの位置や距離などの情報を選手に声で伝えます。

【競技アシスタント】

ボッチャの障害の重いクラスで、選手の指示に従いランプ(ボールを転がすレール)の角度や高さを調節する役割を担います。

【パイロット】

視覚障害選手の自転車で、タンデム(2人乗り自転車)の前方に乗車し競技を行います。

【ガイド】

トライアスロンで、視覚障害選手とともに、バイクではパイロット、ランではガイドランナーを務めます。また、スキーでも、視覚障害選手の目となり安全に競技ができるよう誘導します。

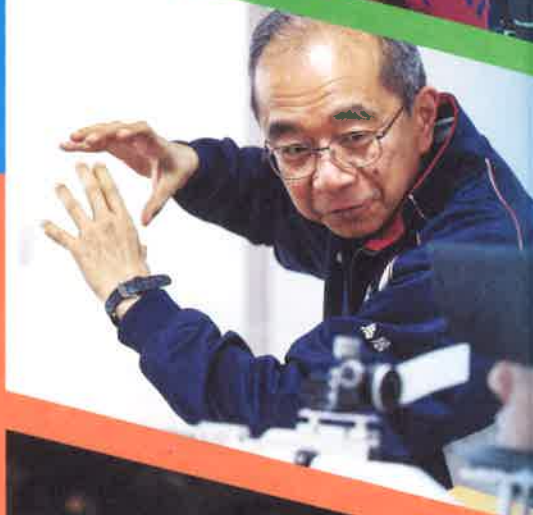


アルペン / ヘッドコーチ兼 スキー / トレーナー / **石井 沙織さん** (理学療法士)

高校時代、競技中の転倒で膝の靭帯を断裂。手術後のリハビリで「理学療法士」という仕事を知りました。選手引退後、理学療法士の勉強に専念し、資格を取得すると、ジムで偶然森井大輝選手(パラアルペンスキー・日本代表)に遭遇。そこで、「競技もできる理学療法士は初めて!」と言われ、その縁でパラスキーの世界に入り、トレーナーとしてチームの一員となりました。

トレーナー兼コーチとして働いた4年間(現在はヘッドコーチ)は、昼間はコースに入って指導、夕方はフィジカルトレーニングの指導をしていました。そして、夜間はトレーナーとして選手のケアを行っていました。

パラリンピックの世界では、選手とスタッフは切っても切れない関係です。選手がメダルを獲得した時は、スタッフとして一番やりがいを感じる瞬間です。



射撃 / コーチ / **鳥居 健さん**(会社員)

娘と一緒にいったオモチャ屋さんでエアガンを購入したのをきっかけに射撃の面白さにハマり、オモチャの鉄砲で競技を始めました。その後本格的な射撃競技に転向しました。

日本障害者スポーツ射撃連盟の方からパラ射撃の発掘・育成に係る事業を手伝って欲しいと言われ、ふたつ返事でコーチの任務を引き受けました。

障害のない人と同様に、障害のある人が一人ひとり違うのも当たり前。だから、あなたはどうか?と詳しく話を聞いたうえで指導やアドバイスをするようにしています。射撃は「自分の身体と心に向かい合うスポーツ」です。話し合う中で、初めて自分の身体の動きや動きに気づく選手もいます。

選手が上手くなっていくこと、競技を理解していくこと、練習や学習することを「選手本人に楽しいと思わせるコーチング」を理想としています。



陸上競技 / ガイドランナー / コーラー / **大森 盛一さん** (オリンピック)

14年前、僕が在籍していた陸上クラブに高田千明選手(走り幅跳び・東京2020パラリンピック競技大会内定)が加入し、コーチを頼まれたことがきっかけでパラ陸上に関わるようになりました。

自分も選手だったので、選手の気持ちはよく分かるし、自分自身がオリンピックなどの大きな大会を何度も経験してきたことで伝えられる技術や知識は、とても大きいと思います。また、そのようなコーチは少ないと思います。

これまでオリンピックに関わってきた人たちは、各々が築いてきた選手時代の「財産」があるならば、人手の不足しているパラリンピックでもいかすべきですし、そのような体制を作ってほしいです。

※写真はガイドランナー中視覚障害の選手と30cmのガイドロープを繋ぎ伴走します